

平成 26 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	05	06	0401	宮沢賢治普及・啓発事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-5	芸術文化の振興			
	施策	2	先人の顕彰			
目的	宮沢賢治に関する研究・創作等の資料を収集、保存、公開するとともに、調査研究を行い、広く学術及び文化の発展に寄与する。					
対象	市民及び観光客（全国の賢治研究者、愛好家等）					
意図	宮沢賢治に関する情報（作品・研究成果）の収集・提供により、賢治の人間像と作品に対する理解を深めることができ、市民、研究者、愛好者の交流を深めることができる。					
事業概要						
宮沢賢治学会イーハトーブセンター事業補助 ・宮沢賢治に関する資料・情報の収集及び提供 ・定期大会、研究発表会・シンポジウム等の開催 ・研修会・講座等の開催 ・会員間の情報交流、研究活動への協力 ・宮沢賢治賞・イーハトーブ賞の選考 企画展開催 ・賢治研究の先駆者たち⑤ 宮沢清六展 H25年 9月21日～H26年5月31日 ・みんなが幸せに!～宮沢賢治のころ～ 6月3日～7月13日 ・組木絵 ～宮沢賢治の世界～ 7月16日～8月31日 ・絵本作家いせひでこの世界展 9月3日～11月3日 ・宮沢賢治岩手山麓を行く(盛岡付近地質調査)11月6日～H27年3月29日						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催 後援・協賛		実行委員会・協議会 ○ 補助・助成		
事業協力・協定 委託						
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
① 企画展開催回数	回		計画	2	5	
			実績	2	5	
② 賢治セミナー開催回数	回		計画	3	3	
			実績	4	6	
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
① 入館者数	人		目標	30,000	35,000	
			実績	32,960	32,452	
② セミナー出席者数	人		目標	300	400	
			実績	676	822	
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
【H26成果指標の設定根拠】 入館者数は、興味・関心の深いセミナーや魅力ある企画展の実施により入館者数の増加が見込まれる。 セミナー出席者数は、創意工夫した企画・立案により、増加が見込まれる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	学会は、市民からの提言をもとに、平成2年に「ふるさと創生事業」として設立されたものである。学会は、宮沢賢治の人と作品の普及に多大な寄与をしており、今後も学会が重要な役割を果たすものと思料されることから、公共関与は妥当である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	興味・関心の深いセミナーや企画展を実施し、広報・PRを充実することにより、来館者数、出席者数の増加を図ることができる。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	今までに市正職員の配置を無くし、学会職員に切り替えこの給与の補助をするなど、最小限の経費と人員で実施していることから、削減できる余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	○ どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	イーハトーブ館条例の設置目的等を踏まえ、宮沢賢治に関する講演会、研究会等に使用するほか、市民の学術・文化の発展に寄与する事業に使用するなど、統一した取扱いをしている。また、目的以外使用の使用料の取扱いを定め、統一的に運用している。
	受益機会の見直し余地がある	
○ 費用負担の見直し余地がある		
○ 適正である		
総合評価		
イーハトーブ館は、宮沢賢治に関する情報拠点として賢治関係図書・資料・論文等の情報が収集・保存・整理され、この情報を提供をすることにより情報拠点として重要な役割を果たしている。 また、企画展やセミナー、研究会等の開催により、賢治を学ぶ場を提供し、市民を始め全国から多くの方々が来館され、賢治を学びながら、交流が深められている。		

平成 26 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 生涯学習部 課名 宮沢賢治イーハトーブ館 担当係長 藤井 廣志 内線 31-2116
(単位：千円)

会計				事業名	
款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	05	06	0401	宮沢賢治普及・啓発事業
単位：千円					
		25年度 決算額(A)	26年度 決算額(B)	27年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費			10,938		10,938
財 源 内 訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源		10,938		10,938
事業期間 ○ 単年度繰返 期間限定 [平成 年度 ～ 平成 年度]					
部経営方針における目標					
4 ② 賢治さんの香りあふれるまちづくりの推進					
◎ 賢治のまちづくりの情報発信力強化 ②イーハトーブ館修繕					
事業開始の背景・経緯					
花巻市民からの提言をもとに、「賢治宇宙・賢治精神の探求の最先端となる場」「単に研究者ばかりでなく、賢治の人と作品に関心のあるすべての人が自由に平等に交流でき、利用できる開かれた広場」にしたいという願いを込めて、平成2年に「ふるさと創生事業」として設立					
事業概要					
宮沢賢治学会イーハトーブセンター事業補助					
・宮沢賢治に関する資料・情報の収集及び提供					
・定期大会、研究発表会・シンポジウム等の開催					
・研修会・講座等の開催					
・会員間の情報交流、研究活動への協力					
・宮沢賢治賞・イーハトーブ賞の選考					
企画展開催					
・賢治研究の先駆者たち⑤ 宮沢清六展 H25年 9月21日～H26年5月31日					
・みんなが幸せに!～宮沢賢治のころころ～ 6月3日～7月13日					
・組木絵 ～宮沢賢治の世界～ 7月16日～8月31日					
・絵本作家いせひでこの世界展 9月3日～11月3日					
・宮沢賢治岩手山麓を行く(盛岡付近地質調査)11月6日～H27年3月29日					
事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等					
研究者ばかりでなく、賢治の人と作品に関心のあるすべての人が平等に交流でき、利用できる開かれた広場、情報センターになるよう、創意・工夫した事業展開による学会の活動の活性化と市民へのより一層の情報発信が必要である。					

《事業手法の詳細》	
学会運営経費（H26学会決算額）	
総会費 総会の開催等	1,092千円
理事会費 会議開催費	1,505千円
委員会費 会議開催費	575千円
事務費	682千円
事務局人件費	3,732千円
研究費 研究活動費等	341千円
普及費 企画展、セミナー開催費等	2,503千円
機関誌発行費 機関誌・会報印刷、通信費等	4,660千円
ホームページ運営費	53千円
資料費 図書資料購入費	28千円
賞選考費	779千円
合計	15,950千円
●補助金算定内訳（学会予算額により算定）	
学会運営経費（企画展開催委託費、人件費を除く。）× 1/2 + H26人件費 （17,636－700－3,540）× 1/2 + 3,540千円	10,238千円
●企画展開催委託費	700千円
※10款5項6目101事業から移行	